

Rec'd PCT/PTO 05 OCT 2004

特 許 協 力 条 約

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

REC'D 19 SEP 2003

WIPO

PCT

出願人又は代理人 書類記号 FP03-0059-00	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/04357	国際出願日 (日.月.年) 04.04.03	優先日 (日.月.年) 05.04.02
国際特許分類(IPC) Int. Cl. H05G1/32		
出願人(氏名又は名称) 浜松ホトニクス株式会社		

- 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
☐ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で _____ ページである。
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
 - ☒ 国際予備審査報告の基礎
 - ☐ 優先権
 - ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 - ☐ 発明の単一性の欠如
 - ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ ある種の引用文献
 - ☐ 国際出願の不備
 - ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 04.04.03	国際予備審査報告を作成した日 03.09.03	
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 安田 明央	2W 9309
電話番号 03-3581-1101 内線 3290		

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
PCT規則70.16, 70.17)

☒ 出願時の国際出願書類

- | | | | |
|-------------------------------------|---------|--------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 明細書 | 第 _____ | ページ、 | 出願時に提出されたもの |
| 明細書 | 第 _____ | ページ、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 明細書 | 第 _____ | ページ、 | 付の書簡と共に提出されたもの |
|
 | | | |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 | 第 _____ | 項、 | 出願時に提出されたもの |
| 請求の範囲 | 第 _____ | 項、 | PCT19条の規定に基づき補正されたもの |
| 請求の範囲 | 第 _____ | 項、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 請求の範囲 | 第 _____ | 項、 | 付の書簡と共に提出されたもの |
|
 | | | |
| <input type="checkbox"/> 図面 | 第 _____ | ページ/図、 | 出願時に提出されたもの |
| 図面 | 第 _____ | ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 図面 | 第 _____ | ページ/図、 | 付の書簡と共に提出されたもの |
|
 | | | |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ | ページ、 | 出願時に提出されたもの |
| 明細書の配列表の部分 | 第 _____ | ページ、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| 明細書の配列表の部分 | 第 _____ | ページ、 | 付の書簡と共に提出されたもの |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	13, 18	有
	請求の範囲	1-12, 14-17	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	13, 18	有
	請求の範囲	1-12, 14-17	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-18	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

請求の範囲 1-3, 5-7, 9-12, 14-16

文献1: JP 6-318500 A (株式会社東芝)
1994. 11. 15、全文、第1-10図

文献2: JP 2-5398 A (株式会社島津製作所)
1990. 01. 10、全文、第1-5図

文献3: 日本国実用新案登録出願61-190022号 (日本国実用新案登録出願
公開63-95200号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録
したマイクロフィルム (朝日レントゲン工業株式会社)
1988. 06. 20、全文、第1-2図

文献1には、X線管を制御するX線管制御装置であって、前記X線管が作動したときに前記X線管の管電圧を前記X線が作動していなかった休止時間に応じたプロセスで最大管電圧まで上昇させるためのウォーミングアップ・プログラムを最大管電圧値に応じて複数格納する格納手段と、前記X線管の最大管電圧値が偏光された際に、前記格納手段に格納された複数の前記ウォーミングアップ・プログラムから、変更後の最大管電圧値に対応するものを抽出する抽出手段と、前記X線管の動作を制御する制御手段の記憶部に記憶されているウォーミングアップ・プログラムを、前記抽出手段により抽出された前記ウォーミングアップ・プログラムに書き換える書換手段とを備えたX線管制御装置が記載されており、文献2には、X線管を制御するX線管制御装置であって、前記X線管が作動したときに前記X線管の管電圧及び管電流を最大管電圧及び最大管電流まで上昇させるためのウォーミングアップ・プログラムを有するX線管制御装置が記載されており、文献1記載のX線管制御装置においても、ウォーミングアップ・プログラム文献2に記載されるように管電圧と共に管電流を上昇させるように構成することは当業者が容易に想到しうることである。また、X線管を遠隔制御するX線管制御装置は例えば文献3に記載されるように周知であるから、文献1記載のX線管制御装置においても、ウォーミングアップ・プログラムを書き換える際に、通信回線を介して書き換えることは当業者が容易に想到しうることである。

補充欄 (いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

第 V 欄の続き

請求の範囲 4, 8, 12, 17

文献 4: JP 6-13195 A (株式会社島津製作所)
1994. 01. 21、全文、第 1-4 図文献 5: JP 4-87299 A (株式会社島津製作所)
1992. 03. 19、全文、第 1-3 図文献 6: JP 61-218100 A (株式会社東芝)
1986. 09. 27、全文、第 1-13 図

X線管制御装置において、電子ビームがターゲットに衝突するときの焦点の最小化を実現するように集束レンズを制御することは文献 4 乃至 6 に記載されるように周知であって、文献 1 記載の X線管制御装置においても、集束レンズを制御するためのプログラムも格納することは当業者が容易に想到しうることである。

請求の範囲 13, 18

文献 1 乃至 6 及び国際調査報告において引用されたいずれの文献にも、入力手段に入力された最大管電圧値と一致するウォーミングアップ・プログラム上の最大管電圧値がない場合に、ウォーミングアップ・プログラム上の最大管電圧値が入力された最大管電圧値よりも大きくかつウォーミングアップ・プログラム上の最大管電圧値と入力された最大管電圧値との差が最も小さくなるように、入力された最大管電圧値を格納手段に格納されたウォーミングアップ・プログラムとを対応させることについては記載されておらず、当業者にとっても自明なものでもない。